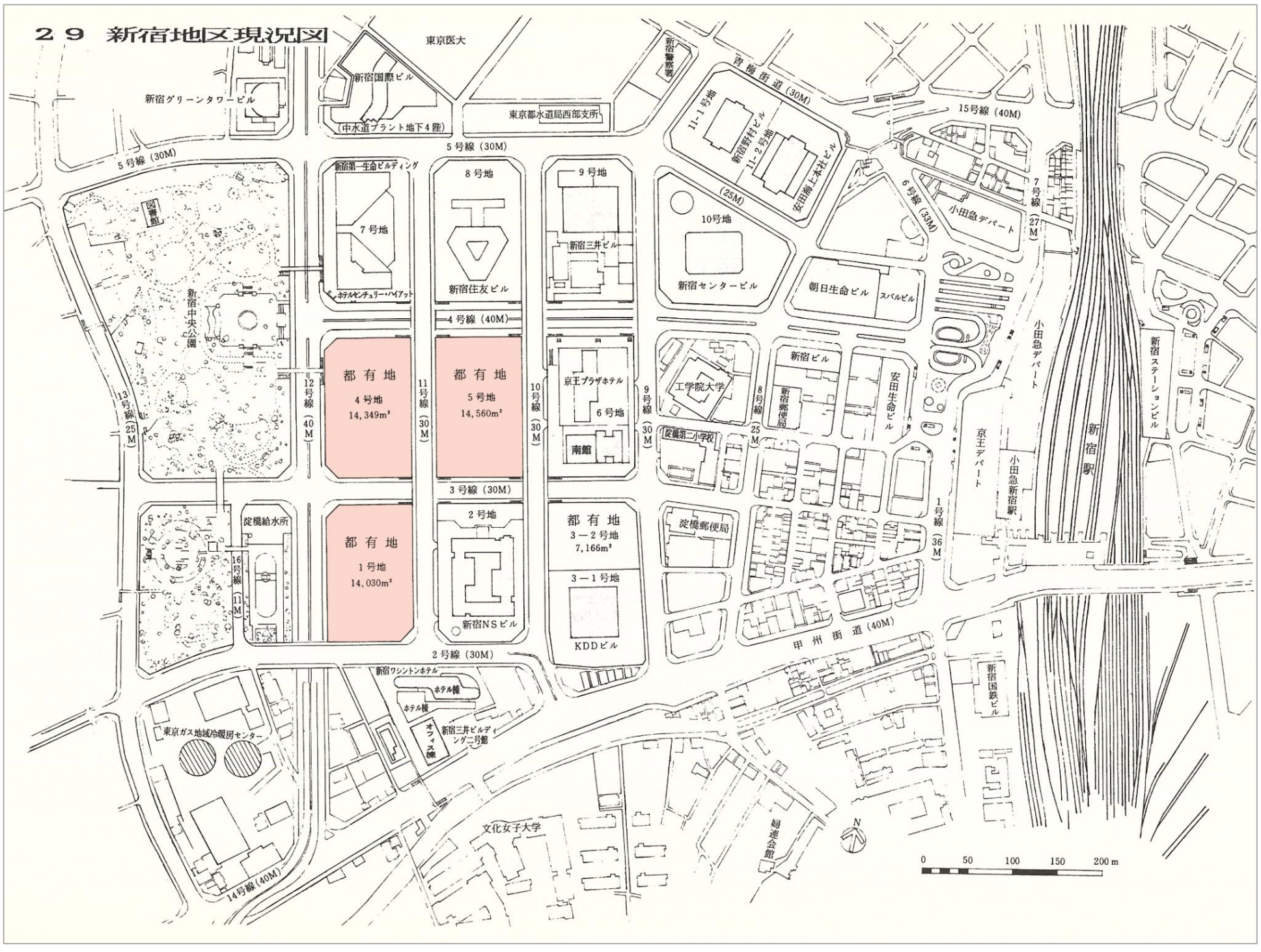
新宿副都心の沿革②



「新宿地区現況図」（昭和 60 年時点）

企画審議室調整部『東京シティ・ホール建設計画　基本構想　資料集』昭和 60 年（1985）９月

浄水場移転を求める声が再燃するなか、都水道局も昭和 29 年（1954）から淀橋浄水場移転について検討を開始します。そして昭和 31 年（1956）、近く建設に着手する東村山浄水場に併設する形で、移転させる案が決まりました。

昭和 33 年（1958）には、首都圏整備法に基づく「首都圏整備計画」で、新宿地区を副都心として総合的業務街に整備することが示されます。

都はこれに基づき昭和 35 年（1960）に「新宿副都心の都市計画並びに事業計画」を決定・告示、浄水場を含むエリアの再開発を決定し、淀橋浄水場は昭和 40 年（1970）３月に廃止・移転となりました。

こうして誕生した都有地の一部が、新庁舎の移転先候補となっていくのです。